

青森県景気ウォッチャー調査

(平成14年1月期)

調査期間 平成14年1月4日～21日

回答率 97%

	平成14年1月	前期(H13.10)比
景気の現状判断DI	26.8	4.8ポイント上昇
景気の先行き判断DI	32.5	3.7ポイント上昇

1. 結果概要

(1) 3か月前と比べた景気の現状判断DI

<p>県全体の動向 前期調査に比べて、4.8ポイント上昇の26.8となったものの、横ばいを示す50を引き続き下回った。 これは、「やや悪くなっている」「悪くなっている」が前期に比べると幾分減少した一方、「やや良くなっている」「変わらない」がやや増加したことによる。 判断理由をみると、年末年始の季節的要因により「3か月前よりは売上げが増加している」との声が一部でみられた一方、「県内大手スーパーの倒産による影響」、「客単価の低下」、「消費者の購買意欲の低下」をあげる声が多かった。</p>
<p>分野別の動向 前期調査に比べて、家計関連、企業関連において上昇した。家計関連の中では、特に飲食の上昇が目立っている。</p>
<p>地区別の動向 前期調査に比べて、津軽及び県南地区で上昇した。特に津軽地区が、年末年始の季節的要因により大きく上昇した。水準でみると引き続き県南地区が最も低かった。</p>

(2) 3か月後の景気の先行き判断DI

<p>県全体の動向 前期調査に比べ、3.7ポイント上昇の32.5となった。 これは、前期調査で最も多かった「やや悪くなっている」が減少した一方、「変わらない」が増加し、全体のおよそ5割を占めたことによる。 しかし、判断理由をみると、景気が良くなる材料がないことから「変わらない」と回答した人が多く、引き続き景気に対する先行き不透明感をうかがわせている。</p>
<p>分野別の動向 前期調査に比べて、家計関連、企業関連、雇用関連ともに幾分上昇している。</p>
<p>地区別の動向 前期調査に比べて、全地区で幾分上昇しており、各地区とも「変わらない」との回答が最も多かった。</p>

2. 県全体の動向

(1) 3か月前と比べた景気の現状判断

DI

	平成13年		平成14年
	7月	10月	1月
合計	28.8	22.0	26.8
家計関連	32.7	24.3	30.6
小売	30.0	23.3	28.6
飲食	31.3	15.9	43.8
サービス	37.0	27.8	28.8
住宅	29.2	29.2	20.8
企業関連	12.5	6.9	11.1
雇用関連	28.6	35.7	28.6

回答別構成比(%)

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成13年 7月	0.0	3.0	34.0	38.0	25.0
10月	1.0	1.0	19.2	42.4	36.4
平成14年 1月	0.0	8.2	22.7	37.1	32.0

(2) 3か月後の景気の先行き判断

DI

	平成13年		平成14年
	7月	10月	1月
合計	34.5	28.8	32.5
家計関連	36.0	29.1	32.6
小売	33.3	21.7	30.4
飲食	22.9	36.4	35.4
サービス	44.4	33.3	34.6
住宅	37.5	33.3	29.2
企業関連	25.0	23.6	27.8
雇用関連	42.9	39.3	42.9

回答別構成比(%)

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成13年 7月	0.0	6.0	46.0	28.0	20.0
10月	1.0	3.0	28.3	45.5	22.2
平成14年 1月	0.0	4.1	46.4	24.7	24.7

3. 地区別の動向

(1) 3か月前と比べた景気の現状判断

< 東青地区 >

DI

	平成13年		平成14年
	7月	10月	1月
合計	31.7	23.3	23.3
家計関連	34.8	25.0	25.0
小売	33.3	30.6	25.0
飲食	33.3	16.7	33.3
サービス	38.9	19.4	22.2
住宅	25.0	37.5	25.0
企業関連	12.5	6.3	6.3
雇用関連	33.3	33.3	33.3

回答別構成比(%)

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成13年 7月	0.0	0.0	53.3	20.0	26.7
10月	0.0	0.0	23.3	46.7	30.0
平成14年 1月	0.0	0.0	30.0	33.3	36.7

< 津軽地区 >

DI

	平成13年		平成14年
	7月	10月	1月
合計	32.5	23.3	34.5
家計関連	37.5	25.0	41.7
小売	30.6	30.6	44.4
飲食	41.7	8.3	41.7
サービス	43.8	25.0	46.4
住宅	37.5	25.0	12.5
企業関連	12.5	12.5	8.3
雇用関連	37.5	37.5	37.5

回答別構成比(%)

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成13年 7月	0.0	6.7	30.0	50.0	13.3
10月	0.0	3.3	16.7	50.0	30.0
平成14年 1月	0.0	20.7	20.7	34.5	24.1

< 県南地区 >

D I

	平成13年		平成14年
	7月	10月	1月
合 計	20.8	18.3	22.4
家計関連	23.8	21.4	25.0
小売	25.0	11.1	15.6
飲食	8.3	16.7	66.7
サービス	28.6	35.7	17.9
住宅	25.0	25.0	25.0
企業関連	14.3	3.6	17.9
雇用関連	12.5	37.5	12.5

回答別構成比 (%)

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成13年 7月	0.0	3.3	13.3	46.7	36.7
10月	3.3	0.0	13.3	33.3	50.0
平成14年 1月	0.0	6.9	13.8	41.4	37.9

< 下北地区 > (参考)

D I

	平成13年		平成14年
	7月	10月	1月
合 計	32.5	25.0	27.8
家計関連	36.1	28.1	31.3
小売	33.3	16.7	25.0
飲食	41.7	25.0	33.3
サービス	33.3	41.7	33.3
住宅	-	-	-
企業関連	0.0	0.0	0.0
雇用関連	-	-	-

回答別構成比 (%)

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成13年 7月	0.0	0.0	50.0	30.0	20.0
10月	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
平成14年 1月	0.0	0.0	33.3	44.4	22.2

(2) 3 か月後の景気の先行き判断

< 東青地区 >

DI

	平成13年		平成14年
	7月	10月	1月
合 計	37.5	28.3	30.8
家計関連	38.0	30.4	31.5
小売	33.3	25.0	19.4
飲食	33.3	50.0	41.7
サービス	47.2	27.8	38.9
住宅	25.0	37.5	37.5
企業関連	25.0	12.5	12.5
雇用関連	50.0	33.3	50.0

回答別構成比 (%)

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成13年 7月	0.0	3.3	56.7	26.7	13.3
10月	0.0	3.3	23.3	56.7	16.7
平成14年 1月	0.0	3.3	43.3	26.7	26.7

< 津軽地区 >

DI

	平成13年		平成14年
	7月	10月	1月
合 計	40.0	35.8	39.7
家計関連	39.8	34.1	39.3
小売	33.3	33.3	41.7
飲食	41.7	41.7	41.7
サービス	43.8	34.4	42.9
住宅	50.0	25.0	12.5
企業関連	37.5	37.5	37.5
雇用関連	50.0	50.0	50.0

回答別構成比 (%)

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成13年 7月	0.0	10.0	53.3	23.3	13.3
10月	0.0	3.3	50.0	33.3	13.3
平成14年 1月	0.0	10.3	51.7	24.1	13.8

< 県南地区 >

D I

	平成13年		平成14年
	7月	10月	1月
合 計	27.5	26.7	27.6
家計関連	31.0	27.4	28.8
小売	36.1	11.1	28.1
飲食	0.0	41.7	25.0
サービス	35.7	39.3	28.6
住宅	37.5	37.5	37.5
企業関連	17.9	21.4	25.0
雇用関連	25.0	37.5	25.0

回答別構成比 (%)

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成13年 7月	0.0	3.3	33.3	33.3	30.0
10月	3.3	3.3	16.7	50.0	26.7
平成14年 1月	0.0	0.0	44.8	20.7	34.5

< 下北地区 > (参考)

D I

	平成13年		平成14年
	7月	10月	1月
合 計	30.0	13.9	30.6
家計関連	33.3	15.6	28.1
小売	25.0	8.3	37.5
飲食	16.7	0.0	33.3
サービス	58.3	33.3	16.7
住宅	-	-	-
企業関連	0.0	0.0	50.0
雇用関連	-	-	-

回答別構成比 (%)

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成13年 7月	0.0	10.0	30.0	30.0	30.0
10月	0.0	0.0	11.1	33.3	55.6
平成14年 1月	0.0	0.0	44.4	33.3	22.2

4. 判断理由

(1) 景気の現状判断理由

現状判断	分野	地区	業種	理由
やや 良くなっている	家計	津軽	家電量販店	販売企画等により、家電商品の販売は堅調だ。お客様に割安感があった場合は、予想以上に反応が良い。プラズマテレビ、BSハイビジョンテレビも予想以上に良い。
			一般小売店	10～12月の売り上げが、当社3店合計で、前年比3%増であったのに加え、1月初めの売り上げがそれより少し良くなっている。
			レストラン	狂牛病の為に苦戦しているが、12月～1月上旬は良くなっている。しかし、先行きは不安定。
			観光型ホテル・旅館	正月なので、3か月前と比べるとやや良くなっていると回答したが、例年と比べると悪くなっている。
			美容院	お客の平均単価が上がってきている。
		県南	一般飲食店	当店に限って、9～12月までは売上げが急増している。
		レストラン	年末年始はやや良かったが、景気自体は悪くなっていると思う。	
変わらない	家計	東青	百貨店	競合の変化はあるが、前年と比較すると、実質的には変化はない。
			衣料専門店	顧客全体の購買行動に特段の変化は見られないが、高額品の購買客は徐々に減少している。これからが問題である。
			商店街	先行きが見えない不況ムードが浸透し、個人消費は低迷状況。活況を呈しているのは総合病院と一部の専門医院が。
			一般飲食店	3か月前が悪かったので、それよりは悪くなっていない気がする。
			レストラン	日本全体では、景気が底打ちしたように見えるものの、青森では反応も鈍く、雪の降りようによっては、客足も鈍くなるので、まだよくわからない。
			住宅建設販売	県内大手企業の倒産。雇用不安。
		津軽	百貨店	現在の状況(景気の悪さ)が定着しつつあると思う。
			スーパー	客数、客単価が変わらない。
			衣料専門店	前年に比べて、特に景気が良くなる要素なし。先行き不透明により、消費者は金を使わない。
			商店街	年末年始の商況、その後のパーゲンでも好転している実感はない。
			観光名所等	個人客、ツアー客とも入れ込みはあるが、土産品等の購買動向が今ひとつである。
			パチンコ店	売上げの減少傾向が継続している。
		県南	家電量販店	商品の動きが少ない。
			スナック	大型店舗の破たんや失業によって飲む元気をなくしている。
		下北	一般飲食店	悪い状態が変わらない。ただし、1月2～4日は、昨年よりやや良くなっている。

			タクシー	市内大手の建設業等の公共工事費が、この3か月間マイナス続きなど、寂しさが徐々に下請業者にも影響しつつある。また、新年会なども、一般企業は少なく、公的企業もかなり自粛している様子がうかがえる。
			ガソリンスタンド	特に下北地区の建設業の公共事業が減少している。
	企業	県南	食料品製造業	売上金額、数量ともに横ばい。
	雇用	津軽	人材派遣会社	弊社は民間の職業紹介所だが、求人件数が低水準で安定している。また、求職相談件数は増えている。
やや 悪くなっている	家計	東青	観光型ホテル・旅館	忘・新年会の予約状況を見ると、平日の予約がほとんどない。
			都市型ホテル	雇用状況の悪化、売上げ低調、倒産増加等、厳しい話題のみで、明るい材料が殆んどない。
			観光名所等	青森市の大型ショッピングセンターの破たん等により、市民一人一人まで景気の悪さが染み込んできたように感じる。
			美容院	年末年始は、お客様の心理的な部分で客数が増加するが、前年と比べると15%ほど落ち込んでいる。
			競輪場	車券売り上げが減少しているように思う。
			ガソリンスタンド	身近な倒産等が増えているので、全体の心理的作用が悪い方へ向いており、新規投資がしにくい状況である。
		津軽	乗用車販売	12月の新車の登録状況が対前年比で2ケタの落ち込み。10月からだんだんと悪くなってきている。
			卸売業	売掛金の回収が長期化。手形不渡事故が増加。加えて、自己破産申請の声が増えた。
			一般飲食店	ハローワークにパートの募集に行ったところ、以前より失業者が多く、真剣に求人情報を見ている人が多くなった。また、ボーナスが減少したと聞く。デパートにおいても人員を削減。県外・県内大手スーパーの倒産。
			都市型ホテル	宴会件数は、セールス等の努力で微増だが、1件当たりの平均人数、及び客単価のダウンが顕著である。
			旅行代理店	りんご価格の下落による消費の伸び悩み、建設関連の仕事量の減少、弱電の海外進出による生産の減少に係るリストラなど。また、年金受給者の財布のひもが固くなっている。
		県南	設計事務所	仕事の量が減っている。
			コンビニ	自店でのアルバイトさんやお客様からの声を聞いても就職が厳しいようで、今年の高卒、大卒の就職率をみても40%を切る状況。また、今後の大手グループのリストラ等を考えても良くなる傾向が見えてこない。
			百貨店	今年の春闘をみると、ベースアップではなく、雇用確保が優先されており、そのためにワークシェアリングの導入という手段(個々人としては賃下げにつながる)が言われている。
			スーパー	お客様が目的買いをしており、ムダ買い、衝動買いはしなくなっている。平均単価が下がっており(昨年比96~97%)、高いものから安いものへシフトしている。
			観光名所等	12月頃から下に向かっていていると思う。財布のひもがちょっと固い。
			旅行代理店	米国テロの影響もあり、海外旅行、あるいは旅行そのものを手控える傾向がみられるものの、極端に悪化している兆候はみられない。

		ガソリンスタンド	物販が伸びない。
		設計事務所	会合等でも、誰一人として経済状況の良い話をしていない。先行き不安だと言っている。
		住宅建設販売	民間工事が減少している。また、受注しても利益を確保するのが困難である。
	下北	スーパー	お客様の買い上げ点数が少なくなって、単価も低くなっている。
		一般小売店	特売商品の消費率が向上し、新規のお客様も増加している。デパートで買物をしていたお客様も、特売商品（安い品）を求めているのでは。家計に占める衣料品の割合が減少していくと思われる。
		レストラン	お客様の減少、忘年会の減少、狂牛病事件、売り上げ減少。
企業	東青	経営コンサル・会計	リストラ拡大、賞与支給のカットや減額等、企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況にある。
	津軽	経営コンサル・会計	建設業、製造業に加えて、不動産業も売上の低下が著しい。業種全体をみると、過半数の企業の売上が減少している。
		広告・デザイン	採算ベースぎりぎりでの受注により、利益の減少は依然として変わらないが、ここへきて、交渉物件や受注数自体が少なくなってきた。
	県南	紙・パルプ製造業	在庫過剰により、生産調整が一段と強化されている。
		電気機械製造業	仕事量が減少し続けている。また、値引き要求も相変わらずで、この3か月でも15%程の価格引き下げを強要された。
		経営コンサル・会計	極端に悪くなっていると思うが、3か月前と比較すると「やや悪くなっている」となった。倒産、廃業などは、景気の悪さと比較すると少ないように思う。
雇用	東青	求人広告	求人広告が引き続き減少している。大手流通企業の倒産による影響も出ている。
		人材派遣会社	県内の大型倒産による。
	津軽	求人広告	消費者の購買意欲が低い。お金を持っている人は多いが、買物の選択に慎重。一般の人でも豊さに慣れ、衣類、食品なども低価なものを選ぶ傾向に。このため小売に影響が出て、積極的な宣伝にも結びつかない様子。住宅産業もかなり苦戦しているところもある。
	県南	人材派遣会社	比較的大手の企業がノー残業を推進していたり、中小企業では、冬のボーナスを出せないなどの声を多く聞いた。
悪くなっている	家計	東青	コンビニ
			中小零細企業の破たんなどにより、経営者、従業員ともに行き詰まるケースが増加。結果、生活費が不足してきている。
			スーパー
			本当に必要なもの以外は買わないという傾向が見られる。あるいは、その傾向が強くなっている。
			一般小売店
			年末年始の売り上げは昨年並みだが、それ以前、それ以降の売り上げはマイナス。
			卸売業
			・競争激化に伴う販売単価の低下、利益の減少 ・商品の販売が低調 ・全体として前年を下回る売り上げが続いている

		スナック	12月は、お客様がまあまあ入っていたが、その割に売り上げは少ない。お客様が少ないうえ、単価が下がっているので大変だ。
		旅行代理店	地元大型店の店舗閉鎖、失業者の増加、商品の価格低下の浸透等の現実を踏まえれば、良くなるムードは全くない。
		タクシー	依然として、乗客数、売り上げが右下がり。
		設計事務所	マスコミ等の情報において、明るくなるような見通しが無い。
	津軽	コンビニ	客単価が下がっている。リストラされたというお客様の声が身近で聞かれるようになった。
		ガソリンスタンド	地元スーパーの倒産、誘致企業の撤退、消費の落ち込み。
		住宅建設販売	景気の悪化はスピードを早めているようだ。対外的には金融機関の倒産（特に地方の信用組合）が目立つ。中小自営の目に見えない倒産による雇用不安が増大している。
	県南	乗用車販売	初売りの反応があまり良くなかった。年末のボーナスも少ないとか、もらえなかったという話も聞こえている。あまり長いローンは組めないというお客様がいた。
		衣料専門店	都会のデパートは売上増となっているようだが、総じて1人当たりの買物金額が少なくなっている。
		商店街	各店の売り上げが、総じて前年を割っている。
		卸売業	年末年始商戦も期待したほどの効果出ず。会社単位での忘新年会も年々減少気味で盛り上がりに向け、売り上げ・利益も前年割れとなった。デフレ傾向が益々出ている。
		観光型ホテル・旅館	宿泊の問い合わせについての電話が極端に少ない。実費の宿泊がない。昨年は、少ないなりに新年会が7件ほどあったが、今年は皆無の状況。
		タクシー	大手スーパーや銀行等の破たんによる失業者がまだまだ増える。所得は減収している一方、支払いはどんどん多くなっていく。その為に金を使えなくなっているように思う。
		美容院	売り上げが以前より悪い。
	下北	都市型ホテル	冬季の観光スポットがないため、宿泊客が減少する。
企業	東青	食料品製造業	倒産件数、失業者が増加している。
		建設業	新しい年を迎えても、民間投資に明るさがみえない。各企業も個人も負債の整理が優先課題の様子。
	津軽	食料品製造業	県外・県内の大手スーパーの倒産や中小スーパーの倒産により、当社でも相当な額の不良債権を抱えている。周りの人たちの話を聞いてもこの話題ばかりだ。
		飲料品製造業	今までみられなかった業種の新規セールスが来社している。
		電気機械製造業	3か月前、これからの景気は回復へ向かいそうな動きもみられたが、アメリカのテロの影響で消費者の購買意欲が薄れた。
	県南	飲料品製造業	予想通り、忘年会、新年会は惨憺たる有様だった。予想外だったのは、年末年始の家庭消費も、日常の域を出なかったことだ。

		建設業	公共、民間ともに工事発注が少なく「仕事がなく困っている」「何か仕事がないか」と訴える業者が増えている。また、受注に際しても競合が激しく、利益計上が困難な状況にある。
		広告・デザイン	広告手段が、コストのかからない方法に移行している。毎年の広告予算が減少している。
		食料品製造業	職種、業態を問わず、全ての人の話や情報が悪いから。
雇用	県南	求人広告	流通の年末・初売商戦も消費不況で下降の一途。水産も漁獲不振で更に悪化。運輸関係では、物が動かないとの話あり。得意先で良い話が全く聞かれない。

(2) 景気の先行き判断理由

現状判断	分野	地区	業 種	理 由
やや 良くなっている	家計	東青	乗用車販売	決算に向けて、社用車の代替などが期待できそう。
			津軽	一般小売店
		観光名所等	お客様からの問い合わせや要望からして、旅行（特に国内）に関しては停滞感が感じられない。	
		美容院	お客の話などを聞くと、みんな不景気に慣れてきているようだ。	
変わらない	家計	東青	百貨店	客数の増加や単価の変化がまだみられない。
			一般飲食店	景気が今より悪くならないように願望を込めて。
			スナック	全体的にこのままの不景気の状態が続くと思う。不安だ。
			都市型ホテル	企業の自助努力により、現状維持で精一杯。
			観光名所等	良くなるだろうが、はっきりとした物がない。
			旅行代理店	現実的な対応が出来るようになりつつある。極端に取り扱いを落とすことはないと思う。
			美容院	2月は降雪状況により左右される。3月は卒業シーズンのため、客数は増えるが、前年対比は落ち込むと思う。
			住宅建設販売	雇用不安により、消費が増加しないのでは。
		津軽	百貨店	購買意欲を感じるお客様が減少していると感じるが、就進学、異動期を背景として、必要なものは購入すると思う。
			家電量販店	お金を使うことに慎重なのは変わらないので、大きく変化する見込みは少ない。
			商店街	短期的に好転の材料なし。
			卸売業	公共工事の減少により、先行き不透明。
			レストラン	どのように変化していくか予想がつかない。
			都市型ホテル	客数、客単価はこの先も減少傾向にあると考える。この先、2～3年は売上増を望むより、コストダウンで利益確保を目指す。
		旅行代理店	3月までは、そのまま継続していきだろうが、津軽地域はこれ以上の落ち込みはないと思う。2～3月の業界の旅行動向が、前年より上向きである。	
		県南	スーパー	今春の大企業（銀行含む）の決算含め、株価はさらに下落すると思う。全国的に不況感はそのままで、大型倒産のニュースはさらに続きそうな気がする。庶民の可処分所得はさらに減るとみている。
			乗用車販売	これ以上は悪くなるとは思わない。今が最低の状況かもしれない。決算をひかえているので消費は上向くと思うが、財布のひもが固く、前年比でみるとあまり変わらないのではないかと。
			スナック	先行き不安により、金額を指定して会費で飲むお客様が増えている。
			旅行代理店	現在から目立って悪化していく兆候はみられていない。ただ、大手30社問題に係る企業破綻、ペイオフに向けての金融機関破綻等の不安ムードが支配的になれば、悪化に向かうことも考えられる。

	企業	下北	美容院	良くなる具体的な政策がない。伝わっていない。気分的な部分もあると思う。	
			パチンコ	前年比、前々年比の数値がプラスになったことがなく、厳しい状況である。	
			設計事務所	政府の景気対策が小泉首相によって打ち出されたので、これ以上は悪くならないのでは。	
		スーパー	スーパー	今後、景気が良くなっていくとは思えない。	
			一般飲食店	良くなる見通しが立たない。	
		タクシー	県内の老舗大型企業の倒産など、商工関係は厳しさがまだ続きそう。せめて、新幹線八戸駅開業に伴い恩恵が、むつ、下北に少しでもあれば幸いと思う。特に、観光面でのメリットを期待したいものだ。		
		津軽	食料品製造業	このままの状態は、まだ当分の間続くと思う。良くなる兆しが見えない。	
			電気機械製造業	現在の不景気の大きな原因となっているIT産業の回復には、まだ半年以上かかると思う。	
			広告・デザイン	悪い状況は依然として変わらない。企業年度末時期（3月）までに景気が少しでも良くなっているとは思えない。政府の景気対策案が不十分。企業が完全に守りの姿勢に入っている。	
		県南	食料品製造業	冬が過ぎ、春の足音が聞こえ始めるので、気分的に3月頃は良くなる。	
	経営コンサル・会計		自律回復出来る力がない。世界経済などから当分の間、特別なこと（戦争、デノミ）がなければ現状のまま推移しそうだ。		
	雇用	下北	食料品製造業	これ以上悪くなったら機能しない。	
			東青	求人広告	広告出稿増につながる材料が少ない。現状の景気状況では、企業の広告抑制方針は続くと思われる。
		人材派遣会社		現時点で回復の材料がない。	
		津軽	人材派遣会社	明るい話題がほとんどない。	
			求人広告	明るい材料が目に見えていない。どこも防衛が主で、全体的に横ばい状態。	
		県南	人材派遣会社	このままでは、新卒者の雇用もあまり期待できないようだ。未就業者も増加する一方、業務縮小になるのでは？と思う。	
		やや悪くなっている	家計	東青	衣料専門店
	家電量販店				失業者が増加する傾向にあり、雇用に対する不安があるため、消費はさらに冷え込むと思う。
	レストラン				12月の売り上げが前年比で約15%の下落であった。客数の変化はそれほどでもないが、客単価が落ち込んでいる。デフレ傾向が続くのではないか。
観光型ホテル・旅館	個人消費をみると、女性及び老年者の動きはそこそこあるが、団体の動きが止まってしまっている。				
競輪場	車券売上が増える要素が見当たらない。				
設計事務所	回復材料が見当たらない。				
津軽	スーパー		どんな商売であれ今以上良くなるということは考えられない。		

			一般飲食店	アメリカの戦争がまだ終わらない。 外食・被服の購入をおさえている。		
			設計事務所	仕事の先送りが増えてきているように思われる。		
		県南	商店街	景気が良くなるようなまわりの好材料がない。失業者が増え、消費者心理が冷え切っており、デフレスパイラルで企業側も利益減少に悩み、一層のリストラが加速されることが予想できる。		
				一般飲食店	9～12月は、たまたま良かったが、それは単なる企業努力の分で、世間の状況や周囲の同業種の様子などから思うと悪くなる材料しかない。	
			住宅建設販売	3か月先の仕事が見えない。		
			下北	一般飲食店	公共事業削減、亀屋破たん等により、所得・雇用が減少し、購買欲が低下するのでは。	
		レストラン		リストラ倒産、失業者がまた増え、この先ますます厳しくなっていく。		
		企業	東青	食料品製造業	ペイオフにより、現在よりさらに悪化すると思われる。	
			津軽	飲料品製造業	雰囲気落ち込んでいるように見受けられる。	
			県南	経営コンサル・会計	いわゆる「勝ち組」と「負け組」がはっきりしてきており、小売業の中で大幅に売上を伸ばしている企業もあるが、かなり低迷している企業も多い。	
				紙・パルプ製造業	IT不振の影響が、経済全体にさらに浸透してくると思われる。	
				電気機械製造業	先行きの悪材料（要因）が好材料（要因）を上回っており、値引き圧力もまだ収まっていない。	
		広告・デザイン	通常予定していた広告の予算が現時点で削減された。			
		悪くなっている	家計	東青	コンビニ	加盟希望者等の内容を聞くと、リストラ、破たん等による自己破産者も多く、雇用不安の中で、我々の業種に応募する方々が多い。
					スーパー	大型倒産等の影響が表面化するのはいずれからと思われる。
衣料専門店	デフレ傾向が強まり、雇用不安もあるので、個人消費も冷え込み、景気は良くなれないと思う。					
商店街	金融機関の融資選別強化などから、倒産、廃業などが増すのではないだろうか。					
タクシー	利用度の高い高齢者の安価な他機関（バス等）への移行が進む。					
津軽	コンビニ			好転する材料が見当たらない。		
	観光型ホテル・旅館			3月頃は、謝恩会や送別会の時期にもかかわらず、今のところ予約が全然ない。最近、お客様の出足が遅い。		
	ガソリンスタンド			失業率の上昇、有効求人倍率の減少、地元企業の活力低下。		
	住宅建設販売			金融監督庁の金融機関への対応が厳しく、今後益々不良債権悪化に拍車がかかり、倒産がどんどん発生、失業者が増加。景気は益々悪くなるのは必須。株価9000円にもう一度入り込みそう。最悪！		
県南	百貨店			失業率の増加、銀行の不良債権処理のためのリストラ、企業倒産など、良い話は聞こえてこない。この状況では、消費が回復するとは考えにくい。また、6月開催のサッカーワールドカップによる経済効果が3兆数千億円と言われているが、八戸地域には直接影響がないと考える。		

		卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・不良債権処理等が進むため、より厳しい状態になると思われる。 ・景気対策が不十分である。(明るい材料なし) ・勝ち組と負け組が明確となる。
		レストラン	3月の決算期には大手銀行などの金融危機があるのでは。政府の改革がどのように進むかが問題になりそう。
		観光型ホテル・旅館	先行の申し込みが少ない。冬紀行の宿泊に関しても申し込みが少ない。
		タクシー	個人個人をみると、お金は持ってそうだが、今の時代、3か月先が全くみえない。構造改革によって一人一人に痛みが出てくるのだけがみえる。改革によって世の中が落ち着くまでは、景気の回復はないと思う。
		ガソリンスタンド	建設業、運輸業を中心に、仕事量が減少している。
	下北	都市型ホテル	政府による具体的な景気対策が実施されないため。
		ガソリンスタンド	時期的に、冬期であり、降雪期でもあり、活動期ではない。4月以降に望みをかけられる。
企業	東青	建設業	県内では大手スーパー倒産の余波が出てくる。中央では3月決算を控え、経済界に大きな変動が予想される。従って、消費は一層冷え込むと考える。
		経営コンサル・会計	県内企業の大型倒産に伴う失業者の増大。企業側にも不況に対する危機感及び事業革新に向けての意識が乏しく、好転の兆し見えず。
	県南	飲料品製造業	八戸市の公共事業に関する談合問題で、業者に受注額に応じたペナルティが課せられるようだ。かなりの景気引き下げ要因となるはず。
		建設業	国、県の予算編成方針が公共工事費の削減を明示。加えて、地方公共団体の財政悪化が工事発注減に拍車をかけるので、現在の苦境がさらに進むと思われる。
雇用	県南	求人広告	県南地区の雇用状況は依然として悪く、求人広告も過去最低の水準。雇用不安の中で、消費不況は更に深刻化しそうだ。住宅関連も同様に、今春以降の受注見込みが立たないなど、好材料が見当たらない。

5 . 参考

(参考 1) 景気の現状判断

D I

	平成 1 3 年		平成 1 4 年
	7 月	1 0 月	1 月
合 計	14.0	13.1	13.7
家計関連	15.7	14.2	16.7
小売	11.7	13.3	17.9
飲食	12.5	9.1	18.8
サービス	21.3	15.7	16.3
住宅	16.7	20.8	8.3
企業関連	8.3	6.9	4.2
雇用関連	10.7	17.9	7.1

回答別構成比 (%)

	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い
平成 1 3 年 7 月	0.0	2.0	7.0	36.0	55.0
1 0 月	1.0	0.0	7.1	34.3	57.6
平成 1 4 年 1 月	0.0	2.1	8.2	32.0	57.7

地区別 D I

	平成 1 3 年		平成 1 4 年
	7 月	1 0 月	1 月
合 計	14.0	13.1	13.7
東青	12.5	13.3	10.8
津軽	20.0	15.8	17.2
県南	9.2	10.8	12.9
下北	15.0	11.1	13.9

(参考 2) その他自由意見

分野	地区	業 種	自 由 回 答
家計	東青	百貨店	必要なものは早めに行ってしまおうという前倒し傾向がみられる。
		乗用車販売	車をローンで購入する場合、自社ローンの比率が低下して、銀行などを利用する人が増えてきた。お客様が、しばらく金利は変わらないだろうと思っている。
		一般小売店	県内大手スーパーの閉店により、一部店舗において、年未年始の売り上げが昨年比プラスの傾向がみられる。
		商店街	青森市の県内大手スーパー東バイパス店が閉店後、住宅街であるこの辺一帯は全くさびしくなった。周りにスーパーが数店あるので、食品関係はあまり問題ないが、総合衣料品や専門化粧品店などがなくなり、不便であるとか。
		卸売業	不況による消費性向の低下とともに、過当競争状態で、食いつぶし現象が出ている。
		スナック	中央も大変なのに、まして地方は大変だ。テレビ、新聞など毎日のニュースでわかと思う。
		観光型ホテル・旅館	銀行の自己査定が実施されたため、監督官庁の査定結果を良くするために、必要以上に評価を少なくしているのではないかと思われる。そのため、担保不足が発生し、貸出がしぶくなっているように感じられる。
		都市型ホテル	将来への不安が多い為、自己防衛の考え方をする人が圧倒的に多い。
		観光名所等	今後、しばらくの間は、倒産を含め、悪くなる事業所が出てくるのではと考える。
		タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・規制緩和(14年2月)に伴う新規参入 ・運賃(料金)の見直し ・乗務員の高齢化と若手の入社が望み薄 ・業者間の淘汰(中央資本含む)が進む
	美容院	リストラ、倒産により、離職しているお客様が目につく気がする。	
	津軽	衣料専門店	商店街の人の出入が少ない。商店街に人を呼ぶイベントが毎月必要だと思う。
		家電量販店	家電商品に関しては、価格の2極分化がさらに進むと思われる。特にテレビ関係は著しい。これからのソルトレークオリンピック、FIFAワールドカップも好材料に思える。
		一般小売店	若い人たちの化粧品に対しての意識が、以前と比べて飛躍的にアップしていると思う。これは、化粧品だけでなくファッション全体に対しての意識と思われる。
		商店街	上土手町の街路整備、店舗改装が進み、若者向けの出店が目立つようになってきた。弘前商工会議所がTMOとして旗揚げする。
		観光型ホテル・旅館	学生のサークル活動に伴う合宿の申し込みが少なくなってきたことと、日帰り出張が多くなってきたことを感じる。
		都市型ホテル	休眠ホテルの再参入で、宿泊部門が食われている。また、地元資本なので、宴会顧客のバッティングも多数ありやや苦戦。
		観光名所等	県全体の観光関連の受け入れ態勢の悪さを指摘されることが多い。特に、PRや案内のほか、道路、駐車場といったインフラ整備について多く指摘されている。
		旅行代理店	商人の商売に対しての考え方に変化が生じており、顧客第一で攻めるといふ雰囲気を感じられる。
美容院		不景気になれてきて、開き直っているかな！	

		ガソリンスタンド	大手流通企業の競争激化による利益の圧縮、売上げ減少、運転資金の悪化。
		設計事務所	バブル時に出来た同業種の再編をやった方が、いい仕事をする人も、まともな人も増えてくると思う。
		住宅建設販売	昭和4～6年にかけて勃発した世界的恐慌による日本の物価急落と現在のデフレ基調は、よく似てはいないだろうか。
県南		百貨店	同じ商店街に大型店の営業継続問題の結果が3～4月頃に出る予定であり、どうなるか気になっている。
		スーパー	県内大手スーパーの倒産など明るいニュース少ない。優勝劣敗があちこちで起こり、企業別、地域別のまだら景気になると思う。
		乗用車販売	お子さんの就職が決まらなくて、商談が伸びているケースが見受けられる。
		一般飲食店	昨年8月に値上げした結果、やはり本物は強いと再認識した。安売りをして競争している小売店等は、手抜きをして楽をしている分、経済効果があがらないのかもしれない。本物は、手抜きをせずコツコツタイプだから現況には強いと思う。
		レストラン	中小企業の景気低迷が続くと、我々の業界としても大変なことになる。この調査は、景気が良くても悪くても続けた方が良いと思う。
		観光型ホテル・旅館	金融機関が、昨年は応援してくれたが、今年は申し込んでも融資をしてくれない。
		観光名所等	農家の人も、りんごが安値で大変のようだ。上向きになるのはやや無理。
		旅行代理店	12月の新幹線八戸開業へ向け、市、商工会議所等ムードの盛り上げに躍起となっているが、仕事を通じて接触している範囲内では、盛り上がりムードに乏しい感じがする。
		タクシー	郊外にある大型店とか食品のスーパーは景気が良さそうだ。景気が悪くなると、賭け事に走る人が多くなるように思う。
		美容院	誰かいい話をして明るくして欲しいと思う。
		パチンコ	年末の社員賞与額を一律25%～30%を減額実施。
		ガソリンスタンド	企業収益の減少により、従業員の所得が減少気味である。
		設計事務所	最近少しずつではあるが、民間企業の方々より下記の意見が出ている。「構造改革が進む中で、民間企業が賃金カットやボーナス削減をしているのに、官公庁はそのまま支給なのは、民間人として理解に苦しむ。」
下北		スーパー	年末のボーナスも出なかったという声が多く聞こえた。
		一般小売店	現在の円安がこの先続けば、衣料品業界（中国製品）での卸値の上昇が、夏物衣料から予想される。それに伴い、販売価格も上昇するはず。その時、消費者の動向が気になる。買い控えが進まなければいいのだが・・・。
		一般飲食店	職種によっては変化が見られるようになると思う。
		レストラン	この仕事を続けて9年、売り上げも伸びも順調だったが、狂牛病事件以来、先が見えなくなった。
		都市型ホテル	忘新年会を取り止めたり、予算を縮小する傾向にある。
		タクシー	家族連れの乗降客によると、例年より子供たちへのお年玉が少なかったなどの話をたくさん聞く。中年家族における厳しさがうかがわれるような気がする。
企業	東青	建設業	公社14億円横領事件は、古い体質、考え方がもろに噴出した。県当局のこれへの対応のまずさは正に危機的狀態。改革、規制解除（緩和ではない）が掛け声だけでは座して死を待つのみと感ずる。
		津軽	食料品製造業
		飲料品製造業	お客様の様子からいろいろ判断するのは随分難しい。社会情勢の先入観が邪魔になる。

		電気機械製造業	ここへきて国内の空洞化が加速しているように感じる。もはや景気が回復しても以前のような日本経済には戻れないと思う。
		経営コンサル・会計	倒産企業に対する債権の棚上げによる資金繰りの悪化、需要低迷によるリストラの決断、及び従業員の不正横領の発覚等々の企業があった。
		広告・デザイン	御歳暮の受数量が昨年の半数であった。当社からの御歳暮も昨年比50%以下とした。各企業が、接待交際費、広告宣伝費等含め経費の削減に極力努めている様子を感じられた。
	県南	食料品製造業	将来が不透明なので、設備投資に臆病になっている。必要最低限の投資も考えている。
		電気機械製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・不況といっても、衣食住にかかわる生活に必要な産業は一定の仕事量を確保している。 ・納入先は自らの利益優先で下請のところを考える余裕を完全に失っている。これでは、景気回復の立ち上がりはますます遅れてしまう。本県のような下請主体では、回復は他県よりも遅くなってしまいそうだ。 ・公共工事は必要なところに集中して行い、早く効果を出さなければ他県に負けてしまう。吟味を！
		建設業	大手ゼネコンのなりふりかまわない自社利益確保の姿勢が地元業者の経営圧迫要因となっている。今後、さらに生き残り競争の激化が予想される。
		経営コンサル・会計	雇用の問題、特にワークシェアリングについて社会問題化してる。雇用確保が賃金か、労働者のコンセンサスが必要になってきた。
		広告・デザイン	最近、異業種からの参入が目立っている。つまり、現事業での収益縮小に伴い、本来の事業以外から収益を得ようとする動きが多い。これは積極的な動きというよりは、苦しい現状からの動きと判断する。
雇用	東青	求人広告	今年は、2月に北方都市会議の開催、12月に新幹線八戸開業があるが、広告出稿面では大きな要因になっていない。今後に期待したい。
	津軽	求人広告	一般小売業者たちの中で、「今まで食うにやっとながしたが、これからは生きていくのに大変」といった反応が多く聞こえるようになった。
	県南	人材派遣	お正月三が日、デパートでは福袋が売れ残っていたように思う。街にもあまり活気がないように感じた。店員など、サービスに従事している人の教育が必要だと感じる。
		求人広告	八戸市における建設業の談合問題で、春までに体力のない建設会社は倒産するという話が出ており、不況感を駆り立てている。